



テレワーク時代に必要な Web会議システムの メリットと導入方法

テレワークにも便利なWeb会議を利用する企業が増えています。本稿では、Web会議システムを導入するうえで知っておきたいメリットやデメリット、テレワークにおけるWeb会議の活用方法を解説します。

トラムシステム株式会社
メディア編集担当
鈴木 康人

Web会議システムとは

Web会議システムとは、インターネットを使用し、資料の共有および対話を可能とするソフトウェアのことです。

パソコンやスマートフォン、タブレットなど、インターネットにアクセスできる機器があれば、距離や時間に関係なく簡単に利用でき、遠くまで出張して会議をする必要もなくなり、無駄な時間や費用を削減することができます。

Web会議システムは、基本的にクラウドサービスを用いて提供されており、利用者はベンダーと契約をして、そのサービスを利用します。サーバーの管理や運用はもちろん、障害発生時の対応もベンダーが行なうので、利用者はシステムのメンテナンスにコストをかけることなく、業務に集中することができます。

Web会議とテレビ会議の違い

Web会議と似た言葉にテレビ会議という言葉があります。この

2つを混同して考えている人も多いようですが、明確な違いがあります。

Web会議は、インターネットにアクセスできるパソコンやスマートフォンがあれば、場所を問わず会議に参加できます。

一方、テレビ会議もインターネットを使用する点ではWeb会議と同じですが、利用場所については専用機器が設置された会議室が一般的です。

Web会議、テレビ会議がお勧めとなるケースはそれぞれ次のとおりです。




(1) Web会議がお勧めとなるケース

テレビ会議のように1台数十万円する専用機器を導入する必要がなく、コストを抑えたいといった場合にお勧めです。

また、インターネットにアクセスできれば利用できるように、場所を問わず会議を行いたい場合にも適しています。

LINEやSkypeなど無料で利用できるツールもありますが、有料版のWeb会議システムのほうが、品質やセキュリティ面で優れているためお勧めです。

図表1 | 会議・Web会議・テレビ会議のメリット・デメリット比較表

	メリット	デメリット
通常の会議 	<ul style="list-style-type: none"> ・一体感を得やすい ・複雑な議論ができる ・ホワイトボードなどの設備が使える 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者のスケジュール調整 ・交通費や出張費がかかる ・会議室の確保
Web会議 	<ul style="list-style-type: none"> ・専用機器が不要 ・低コストで運用できる ・場所を選ばない 	<ul style="list-style-type: none"> ・品質が回線状況に依存する ・相手の感情がわかりにくい ・大人数の会議には不向き
テレビ会議 	<ul style="list-style-type: none"> ・品質が安定している ・大人数の会議に向いている ・高いセキュリティ 	<ul style="list-style-type: none"> ・コストがかかる ・専用機器が必要 ・利用場所が限られる

(2) **テレビ会議がお勧めとなるケース**

テレビ会議では、Web会議よりも安定した映像や音声で会議を開催することができます。

その一方で、専用機器を各拠点に導入する必要があるため本体代やメンテナンス代がかかるのがデメリットです。

参加者1人ひとりの表情や声をクリアに届けることができるテレ

ビ会議は、人数の多い重要な会議などに適しています。

通常の会議、Web会議、テレビ会議それぞれのメリット・デメリットは図表1のとおりです。

Web会議システムの導入メリット

Web会議システムのメリットは、具体的に次のとおりです。

(1) コストカットにつながる

テレビ会議のように高額な専用機器を必要としない、出張の際にかかる交通費が不要となる、などWeb会議によって無駄な出費を抑えることができ、コストカットにつながります。

(2) 情報共有や意思決定のスピードが上がる

企業における意思決定のスピードは、現代の情報社会を生き抜くためにもっとも重要な要素の1つです。

Web会議システムを利用すれば、どこにいても映像や音声、画像の共有が可能となるため、情報共有や意思決定を迅速に行なうことができます。

(3) コミュニケーションの活性化で信頼関係が深まる

企業の売上拡大・品質向上のためには、全国の営業所などさまざまな拠点で、コミュニケーションを活性化させ、情報を共有することが重要となります。

Web会議システムを利用すれば、場所に関係なく複数の拠点と自由にコミュニケーションを取ることができるようになります。

また、社内のコミュニケーションが活性化されることで、信頼関係も深まります。

(4) 会議資料がペーパーレス化される

Web会議システムを導入することで、会議資料がペーパーレス化されます。また、これまでプリントアウトしていたドキュメントをプロジェクトやモニターを使って確認したり、その場で資料をダウンロードして閲覧したりするなど、印刷よりも素早く情報共有ができるようになります。

(5) 多様な働き方を実現する

Web会議システムによって離れた場所にいる人と気軽にコミュニケーションが取れるようになる

ため、在宅ワークなどの多様な働き方が可能になります。

家庭の都合等でオフィスに出勤することができない社員は、テレワークによってキャリアを継続でき、優秀な人材の離職防止にもつながります。

Web会議システムのデメリット

多くのメリットがあるWeb会議システムですが、インターネットを利用することで懸念される問題もあります。

(1) 音質・画質がネット環境に依存する

インターネットにつながりさえすれば、どこでも利用できるのがWeb会議システムのメリットですが、その反面、回線の混雑状況によってはクリアな音質や画質で会議を開催することができず、会議開始までに時間がかかる、スムーズに会議が進まない、といったケースも考えられます。

また、スマートフォンのテザリングを使用する場合は、所定のデータ量を超過した際に発生する速度制限にも注意が必要です。

(2) 対面での会議に比べると一体感や雰囲気は劣る

パソコンやスマートフォンなどの小さな画面を通してWeb会議を行なう場合、時として相手の表情や雰囲気を読み取りにくいことがあります。

カメラを通して相手の様子が見られるとはいえ、一体感や臨場感には対面する通常の会議にはかないません。

複雑な話や会社の将来に関わる重要な会議などは、移動費や時間のコストを払ってでも、通常の会議を選んだほうがよいこともあります。

(3) 大人数での会議には不向き

Web会議は、テレビ会議とは異なり、少人数での利用に適しています。

通信状況によっては誰が発言したかがわかりにくく、ノートPCやスマホなどの画面の小さな機器で利用した場合には、画質の低下も考えられます。

近年は大人数に対応したWeb会議システムも登場しています。が、導入前ほどの程度の人数で使用するかを検討することが重要となります。

(4) セキュリティの問題

インターネットを使用するWeb会議システムでは、情報漏洩のリスクがまったくないとは言えません。悪意を持った第三者から情報を守るために、パスワードを設定するのはもちろん、SSLやAESといった通信の暗号化が重要となります。

また、特定のIPアドレスを持つ機器からしか利用できなくするアクセス制限などのセキュリティオプション設定に対応しているかも、事前に把握しておきたいことです。

オンプレミスとクラウド

Web会議システムの導入の際には、「オンプレミス」と「クラウド」のどちらにするかを検討する必要があります。

それぞれの特徴とメリットを参考に、自社の運用により適したものを選びましょう。

(1) オンプレミスの特徴

オンプレミスとは、サーバーやソフトウェアなどの情報システムを自社内で管理・運用する方法で

す。この場合、目的に合わせた細かなカスタマイズを行なえる点がメリットとなります。たとえば、使用するサーバー群でVPNを設定すれば、クラウドのWeb会議システムと比較し、よりセキュアな通信が可能となります。

また、不特定多数の顧客が使用するクラウドのWeb会議システムの場合、他ユーザーのトラフィックの影響を受ける可能性があります。ありますが、オンプレミスであれば、外的な要因に影響されず快適な通信が期待できます。

(2) クラウドの特徴

クラウドのWeb会議システムでは、ベンダーが提供するクラウドサービスの使用料を支払い、インターネット経由で利用します。

自社でサーバーを用意する必要がなく、オンプレミスよりも初期費用を抑えることができるほか、サーバーの運用・保守もベンダーが実施してくれるというメリットがあります。

Web会議導入で

テレワークは促進されるか

テレワークは働き方改革の一環

として推奨されているもので、場所（自宅・カフェ・顧客先など）や時間に関係なく効率よく業務を行なう勤労形態の一つです。育児や介護による離職防止、オフィス運営におけるコスト削減、通勤の負担を軽減できる一方で、コミュニケーションシロロスが発生するとう問題もあり、その対応策が求められます（図表2）。

Web会議を利用すると、図表3のようなコミュニケーション解消効果が期待できます。

Web会議システムの導入ポイント

ここまでWeb会議システムの効果について解説してきましたが、業務効率化やコスト削減などの大きな期待をしてWeb会議システムを導入したにも関わらず、思ったほど効果を得られない場合もあります。

上手く使いこなすことができなければ、せっかくのシステムでも宝の持ち腐れです。

ここからはWeb会議システムのメリットを最大化するための導入前から導入後まで、それぞれのポイントを解説します。

図表2 | コミュニケーションロスと対応策

コミュニケーションロスによる弊害	テレワーク導入時の対応策
直接話す機会がなく、やり取りがメールと電話に頼ることになりやすい	チャット等を有効活用するといったコミュニケーション体制の見直しを行なう
文字で要件を伝える機会が増える、伝える情報量が少なくなる	定期的な出社日を設定するなどして、業務内容の共有を行なう
テレワーカーの業務量や精神状態などが見抜きにくくなる	テレワーカーとオフィス勤務社員の相互理解を促す場を設ける

図表3 | Web会議導入のテレワークにおけるメリット

Web会議の特徴	テレワークにおけるメリット
距離に関係なく定期的に顔を見てコミュニケーションが取れ、必要ときにすぐに会議ができる	・テレワーカーとオフィス勤務社員との一体感を生み出す ・テレワーカーが孤独を感じにくくなる
電話やメールでは伝えきれない複雑な内容について議論できる	・テレワーカーにもオフィスで働く社員と同じように責任ある仕事を任せられる

(1) 導入前のポイント

Web会議システムの導入前に、どれくらいの人数でどのような会議に利用するかを明確に定義しましょう。

前述したとおり、Web会議は自席での1対1など少人数での会議に適しています。会議室での大人数での会議にはテレビ会議のほうが向いています。

また、高画質・高音質のWeb会議システムであっても同時に開催される会議の数や使用頻度によつては、トラフィック過多によ

る品質の低下が懸念されます。

利用状況に合わせた回線の拡張も検討してください。ほかにも、使用しているグループウェアとWeb会議システムとの連携について、事前に把握しておくとういでしょう。

(2) 導入の流れ

① 使用目的を検討する

Web会議システムはさまざまなベンダーから提供されています。自社にあつた適切なものを選ぶために、利用シーンや人数、

どのような目的で利用したいかを具体的に検討することが重要となります。

② 製品・プランを選ぶ

Web会議システムには、無料版・有料版があります。無料版はコストがかからないのがメリットですが、品質やセキュリティ面では有料版に劣るのがデメリットです。オンプレミスかクラウドかも検討ポイントです。

オンプレミスでは、自社でサーバーの構築や運用が必要ですが、セキュリティなど自社の運用に合わせてカスタマイズができます。クラウドサービスは、サーバーの構築・運用の手間を省き、より手軽に導入することができますが、機能やセキュリティはベンダーに依存します。

③ 必要な機器を用意する

カメラやマイクなどの機器は基本的にPCやスマートフォン、タブレットに搭載されていますが、画質や音質に不満がある場合や搭載されていないモデルの場合は、別途購入する必要があります。

④ 対象者に利用を促進する

「使い方がわからない」は、普及を妨げる大きな要因となります。運用開始の際には、初めてで

もスムーズに会議が開催できるようマニュアルを用意しておくといでしょう。

製品に付属されているオペレーションマニュアルもありますが、自社で使用頻度の多い項目をまとめたドキュメントを作成しておく、よりわかりやすいのでお勧めです。

(3) 導入後のポイント

Web会議システムを導入した後は、利用対象者にその存在を周知し、積極的な活用を促しましょう。また、操作方法・利用方法がわからない、という理由で利用が増えないことを防ぐため、マニュアルの作成や問合せ窓口も設置するとよいでしょう。

定期的にWeb会議のデモンストレーションを開き、口頭で解説するのも有効です。

働き方改革などの後押しもあり、今後テレワーカーが増えることと、Web会議システムの重要度は、ますます高まっていくと思われま

す。利用目的・用途にあつたシステム選定を行ない、Web会議システムを最大限活用していきたいでしょう。

▲ すぎ やすと 広告代理店にて、雑誌の編集、広告の営業、TV番組の制作、イベントの企画・運営と多岐に携わる。2017年よりトラムシステムに加わり、メディア編集担当として記事執筆を行なう。